

初穂の日と七週の祭りの違いと詩篇119篇の前半・後半の比較

聖書の二つの収穫祭とその象徴

初穂の日（大麦の束）

- ・**祭日と儀式**：モーセ五書によれば、過越の後に「初穂の日」（初物を献げる日）があり、翌日に大麦の束（オメル）を神の前で揺り動かして収穫の開始を告げる^①。大麦の収穫物はオメル献げが行われるまで使用できず、この儀式に続いて過越から七週間を数える（オメルを数える）^②。
- ・**大麦の性質**：ヘブライの伝統では大麦は主に家畜の餌とされ、「動物的な食物」と考えられている^③。これは人間の本能的・肉体的側面を象徴し、オメルの期間はこの本能を神に従わせる準備期間と解釈される。

七週の祭り（シャブオート・小麦のパン）

- ・**祭日と儀式**：初穂の日から50日目は「七週の祭り」（シャブオート）で、ツートン（約5.8リットル）の小麦粉から二つの酵母入りパンを焼き、祭司が神の前で揺り動かす^④。このパンは初穂の一種であり、祭司が食べる^⑤。
- ・**小麦の象徴**：小麦は人間の主食で「人の食物」である^⑥。シャブオートでは、発酵した小麦パンと供え物を捧げることで、理性的・精神的な人間の営みも神に捧げる必要があることを示す^⑦。ハシディズムなどでは、オメル期間は「動物的レベル」から「人間的レベル」へ成長する象徴とされ、49日の数えはこの内的移行を表す^⑧。

大麦と小麦の対比

- ・大麦は未加工の束をそのまま献げるのに対し、シャブオートの小麦は粉をひき、パン生地をこねて酵母で発酵させた後に焼き上げる。これにより、人間が自然物に手を加え、神との協働で精神的に成長する過程を象徴する。
- ・大麦は動物の餌として本能や肉体を象徴し、小麦は思考・理解を伴う人間的側面を象徴する。

詩篇119篇の構成と主題

アクロスティック詩と律法への呼称

- ・詩篇119篇は22のヘブライ文字ごとに8節ずつ配列されたアクロスティック詩で、176節にわたって神の「教え（トーラー）」「言葉」「掟」「命令」「裁き」「証し」「戒め」など8種類の語をほぼ各節で用いる^⑨。^⑩によると、詩人は律法を愛しながらも迫害や苦難の中で助けを求める両側面を持つ。

前半（1-96節）

- ・**主な語彙とトーン**：冒頭の11節（アレフからカフの半ば）では「幸いな者」「潔い道」といった正しい人の姿が描かれ、神の律法に従うことが幸いをもたらすと述べる^⑪。

- ・**苦難の中での助けの祈り**：中盤以降、詩人は自分を嘲る者や迫害者について神に訴え、「私の魂は塵に着きました。あなたの言葉によって私を生き返らせてください」（v.25）など、救いと理解を求める祈りが頻発する¹¹。
- ・**律法が支えであること**：苦難の中で「あなたの律法が私の喜びでなかったなら、私は悩みの中で滅んでいたでしょう」（v.92）と告白し、神の言葉が命を保つ慰めであることを強調する¹¹。

後半（97-176節）

- ・**愛と瞑想の強調**：第13連（メム）にあたる97節は「私はなんとあなたの律法を愛していることか。一日中それを思索します」と始まる¹²。これ以降、詩人は律法への深い愛を繰り返し表現し、「あなたの命令は蜜よりも甘く、私に理解を与えます」（v.103）¹² など、律法の甘美さと内面的喜びを強調する。
- ・**繰り返し現れる愛と喜び**：後半では「あなたの戒めを愛します」（v.127）、「あなたの律法は私の楽しみです」（v.174）といった表現が頻出し、律法を読むことが心の慰めと平安をもたらすと述べる¹³¹⁴。
- ・**理解と知恵への感謝**：詩人は律法の教えによって自分が知者よりも理解が深くなったと述べ（v.99-100）、知恵と悟りをもたらす神の言葉に感謝する¹²。

初穂の大麦とシャブオートの小麦の比喻としての詩篇119篇

前半と大麦の共通点

- ・**苦難の中での守り（肉体的レベル）**：詩篇119篇の前半には迫害・苦難の中で助けと教えを求める祈りが多い¹¹。オメル祭で捧げる大麦が動物の餌・肉体的な側面を象徴するのと同様、前半では神の律法が塵にまみれた魂を支え、基本的な支えとなる。
- ・**「束」の献げと基本的信仰**：大麦の束をそのまま捧げるように、前半では「あなたの戒めを守らせてください」「理解を与えてください」と、基本的な信仰の確立を求める語が続く。これはまだ未加工の信仰段階であり、律法への愛よりも「助けてください」という叫びが主体となっている。

後半と小麦の共通点

- ・**熟した小麦のパンと成熟した信仰**：シャブオートで捧げる小麦のパンは粉を挽き、こね、発酵させた後に焼くという手間がかかる。詩篇119篇後半は、律法に対する深い愛と甘美さ、瞑想・理解が語られ、信仰が成熟した段階を表している。これは「大麦から小麦」への移行、すなわち内面的に加工・熟成された信仰への飛躍を象徴する。
- ・**人間的・精神的レベルへの上昇**：シャブオートの小麦パンが理性と精神的側面を象徴するように⁷、詩篇後半は理解、知恵、喜びを強調し、「あなたの律法を愛している」と何度も宣言する。愛と楽しみは単なる遵守を超えた精神的喜びを示し、オメル期間後の「人間的レベル」への到達に対応する。
- ・**律法への愛の頻発**：後半では「愛」という語が繰り返し現れ、律法を「蜜よりも甘い」と表現する¹²¹³。これは小麦パンの甘さや満ち足りた感覚を連想させ、オメル期間の終わりに味わう喜びと一致する。

実際の霊的実践との関係

- ・多くのユダヤ人やメシヤニック信者はオメル期間中に詩篇119篇を読んだり、22文字の各節を毎日読むことで内省を行う。この習慣では、前半の節が初めの期間の戒めと取捨選択を助け、後半の節がシャブオート近くの精神的成熟を刺激する。
- ・ハシディズムなどの伝統によれば、オメル期間は「動物的本能を矯正する期間」であり、その後のシャブオートで精神的知性を神に捧げる⁸。詩篇119篇の後半で見られる愛・知恵・甘美さの強調は、この精神的高揚とよく響き合う。

結論

大麦の束を捧げる初穂の日から、小麦のパンを捧げるシャブオートまでの七週間は、肉体的・本能的段階から理性的・精神的段階へと成長する象徴として古代イスラエルで理解されていた。詩篇119篇も22連のアクロスティック詩であり、その前半では苦難の中での助けと戒めの遵守を求める本能的な信仰が描かれ、後半では律法への愛と甘美さ、理解が強調される成熟した信仰が歌われている。こうした言語的・内容的な対比は、大麦の未加工の束と小麦の発酵パンという祭儀の対比と響き合い、オメルを数える期間に詩篇119篇が用いられてきた背景を理解する手がかりとなる。

1 2 Yom HaBikkurim - Firstfruits of Spring

https://hebrew4christians.com/Holidays/Spring_Holidays/First_Fruits/first_fruits.html

3 6 7 From Barley to Wheat - Chabad.org

https://www.chabad.org/library/article_cdo/aid/285284/jewish/From-Barley-to-Wheat.htm

4 Leviticus 23:17 Bring two loaves of bread from your dwellings as a wave offering, each made from two-tenths of an ephah of fine flour, baked with leaven, as the firstfruits to the LORD.

<https://biblehub.com/leviticus/23-17.htm>

5 The Two Loaves of Shavuot - Positive Commandment 46 - Chabad.org

https://www.chabad.org/library/article_cdo/aid/961444/jewish/Positive-Commandment-46.htm

8 Up For the Count | Aish

<https://aish.com/up-for-the-count/>

9 10 119/4

https://www.churchsociety.org/wp-content/uploads/2021/05/Cman_119_4_Nodder.pdf

11 12 13 14 Psalm 119 NIV

<https://biblehub.com/niv/psalms/119.htm>